

四日市市 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

短期集中予防サービス（サービス C）

-少し前の日常一緒に取り戻してみませんか?-

チャレンジ教室

実施マニュアル

四日市市 高齢福祉課

令和 7 年 12 月～

● 目次

1. 目的	p1	
2. 必要性和効果	p1	
3. 対象者	p2	
4. 実施内容	p2	
5. 利用開始までの流れ	p3	
6. チャレンジ教室の流れ	p3-p4	
7. 個別サービス計画	p5	
8. 評価項目	p5	
9. プログラム	p6-p7	
10. プログラム実施上の留意点	p8	
11. プログラム開始～事後アセスメント	p9	
12. 修了後アセスメント	p9	
13. 履行報告及び利用料の徴収・納入	p9	
14. 事故対応	p9	
● 基本チェックリスト	p10	
● メディカルチェックシート	p11	
● 評価項目詳細（厚生労働省.介護予防ガイド 実践・エビデンス編より転載.）		
5m歩行速度 p12、Timed Up & Go Test（TUG） p13、片脚立位テスト p14、		
5 回立ち上がりテスト p15、握力 p16、年齢別体力基準値表 p17、		
簡易栄養状態評価表：Mini Nutritional Assessment（MNA） p18、		
オーラルフレイルチェックリスト：Oral Frailty Index（OFI-8） p19		
● 参考資料 URL 集	p20	
〈 様式（別添付） 〉		
1 主治医連絡票	2 私の目標	3 個別サービス計画書
4 実施報告書（市用）	5 実施報告書（包括・居宅用）	6 事故発生報告書

〈 参考文献 〉

全体：厚生労働省.介護予防マニュアル第4版.令和4年3月。厚生労働省.地域づくり支援ハンドブック.令和5年4月。

※1：厚生労働省老健局 第3回一般介護予防事業の推進方策に関する検討会（令和元年7月19日）提出資料（資料1-2）。

荒井秀典、山田実. 通いの場に関するエビデンス。

1. 目的

チャレンジ教室は、リハビリテーション（以下、リハビリ）専門職が、運動器の機能向上等の介護予防プログラムを実施し、利用者の心身機能の維持回復と自主的な運動習慣の構築を支援することで、利用者の生活機能の維持・向上を図り、可能な限りその居宅において**自立した日常生活を営めるようにすること**を目的とする。また、事業修了後もできるだけ長く機能を維持できるよう、住民主体型通所サービスや一般介護予防事業、その他**介護予防に資する取り組みに継続的に参加すること**、あるいは参加する立場だけでなく、ボランティア活動など**支える側に立つこと**を支援するものとする。

2. 必要性と効果

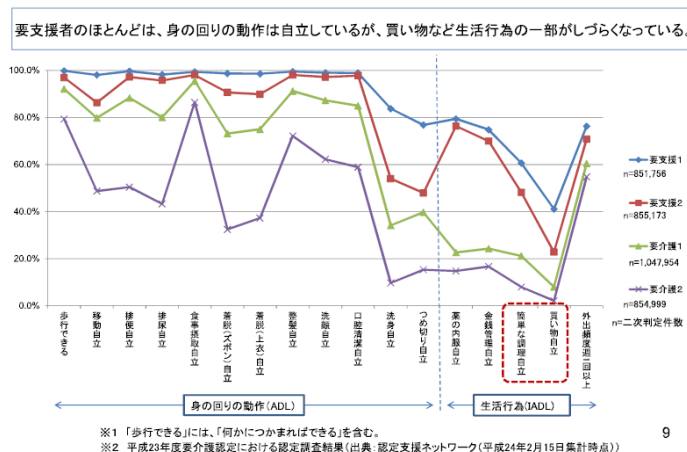
チャレンジ教室の対象者である、要支援1・2のほとんどの方は、身の回りの動作（ADL）は自立している一方で、買い物や調理などの「**生活行為（IADL）**」の一部にしづらさが出現している（図1）。

この原因の多くは、加齢に伴う心身機能の衰え（フレイル；Frailty）であり、外出や家事の機会が減少、つまり生活が不活発となることで、心身機能が更に衰え（廃用症候群）、要介護状態に近づいてしまう。

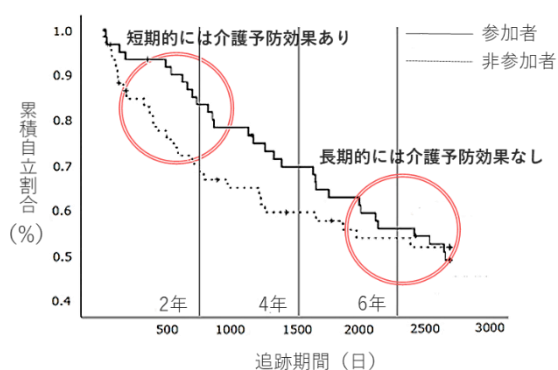
しかし、その方々の実際の生活行為のしづらさについて、専門職が短期間に複数回関わり具体的な方法を指導したり、そのための心身機能向上プログラムを提供することで、生活行為のしづらさを解決でき、少し前の生活に戻ることができることが報告された（図2）。これがチャレンジ教室が生まれた背景である。

ただし、チャレンジ教室による専門職の短期間・複数回の関わりは限定的であり、地域の通いの場等への参加支援まで関わることで、利用修了後も効果の持続性が期待できる（図3）※1。

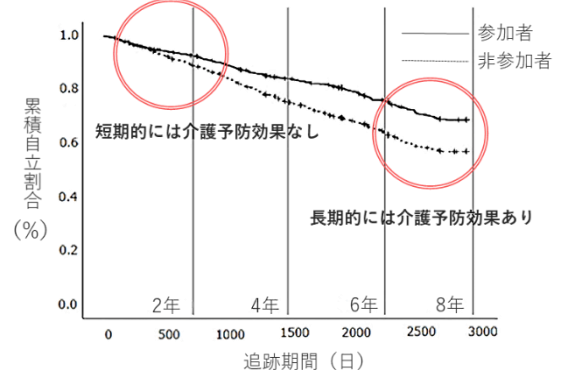
【図1：要支援1～要介護2の認定調査結果】



【図2：専門職による短期集中介入による効果】



【図3：地域の通いの場への参加による効果】



3. 対象者

以下のすべてに該当する者を対象とする。

(1) 要支援認定者又は事業対象者（基本チェックリスト該当者）：詳細条件は以下のとおりである。

要支援 認定者	ただし、①又は②に該当する者は除く。 ①訪問介護（ホームヘルパー）相当サービス、福祉用具貸与・購入又は住宅改修以外の 予防給付サービスを利用している者 ②基準緩和型通所サービス（通所型サービス A）を利用している者
事業対象者	原則 p10 の「総合事業の事業対象者と判定する基準（基本チェックリスト）」の ① 複数項目に支障あり ② 運動機能低下 ⑤ 閉じこもりの項目 } これらの 1 つ以上に該当する者 ※③ ④ ⑥ ⑦の項目のみに該当する者は対象外 ※通所介護（デイサービス）相当サービス又は基準緩和型通所サービス（通所型サービス A）を利用 している者は対象外
共通 留意事項	①うつ病等の精神疾患や認知症を有する者は、チャレンジ教室における指導内容の理解及び 自宅での運動習慣の構築が困難なことが多いことから、他のサービスを含めた利用の検討 を慎重に行う。また、単なるトレーニング目的など「p1 の 1.目的」から明らかに外れる動 機の者についても、一般介護予防事業等を含めた利用の検討を慎重に行う。 ②利用期間中に要介護 1 以上と認定された者の取扱いについては、原則利用終了とするが、 必要と認められる場合に限り、所定の利用料を維持したうえで、移行期間中の経過の利用 を認める。なお、この際の介護予防ケアマネジメントに係る請求手続き等については、別に 定める「介護予防ケアマネジメントマニュアル」を参照すること。 URL： https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1494830659352/index.html ※本取扱いとは例外的措置であり、要介護認定者や「つなぎ」としての利用を想定するものではない。



(2) 地域包括支援センターのアセスメント結果による判断

身体状況や意欲、生活環境等を総合的に判断した結果、チャレンジ教室の利用によって生活機能の向上
及び社会参加の促進が見込める者。

4. 実施内容

チャレンジ教室のサービス提供に係る実施頻度、回数、実施時間、利用料金は以下のとおりである。サービ
ス提供期間は、原則 3 ヶ月で 1 クールであるが、身体・生活機能の状況等により、サービスの継続が必要と考
えられる場合は、サービス担当者会議等を経て決定し、最長 6 ヶ月（2 クール）まで提供期間を延長できる。

なお、1 クールの利用回数については、初回サービス提供日を基準として、原則各年度 1 回限りとする。

項目			実施頻度	1 クールあたりの回数	実施時間	1 回の 利用料金
(1)	訪問型 単独サービス		概ね月 1 回	計 3 回	30 分以上 2 時間以内	無料
(2)	併用 サービス	訪問型	概ね月 1 回	計 3 回（初回、中間、最終）	30 分以上 2 時間以内	無料
		通所型	概ね週 1 回	計 1 2 回	1 時間 30 分以上 2 時間 30 分以内	320 円

5. 利用開始までの流れ

（１）地域包括支援センター（以下、包括）による相談受付とアセスメント

包括は、利用者からの相談を受け付け、アセスメントを実施したうえで、「p2の3の対象者」の条件を踏まえてチャレンジ教室該当者かどうかを判断する。相談の初期段階では、本人の意欲・目標が明確でないこともあるため、それを上手く引き出せるような対応を心がけること。

また、利用可否の決定にあたっては、「メディカルチェックシート（p11）」を活用して、その適否を判断するものとし、心疾患、呼吸器疾患等があり、事業参加において医師への確認が必要と判断された場合は、主治医に相談することを促す。本人から主治医への相談が難しい場合は、包括から主治医連絡票（様式1）にて主治医に参加の可否を訪ねる。

対象者の決定において、健康状態が急変あるいは悪化する危険性があると判断した場合、または、医師から運動を制限されている場合は、対象者に該当しないものとし、他のサービスを含めた利用の検討を行う。

（２）包括または居宅介護支援事業所（以下、居宅）によるサービス利用の調整

包括またはケアマネジメント委託を受けた居宅は、実施事業所に利用可否、利用可能時期及びスケジュール、サービス内容等を確認したうえで利用を依頼し、生活チェックシート及び基本チェックリストの結果により、利用者の情報を提供する。

（３）サービス担当国会議及びチャレンジ教室実施事業所（以下、事業所）による契約と事前アセスメント

事業所の事前アセスメントを兼ねてサービス担当国会議を実施し、下記①または②の方法をもとに、利用者の希望、心身・生活機能、QOL等の状況について把握し、目標を共有する。

①訪問介護（ホームヘルパー）相当サービス、福祉用具貸与・購入又は住宅改修の予防給付サービスを利用している者：ケアプラン原案をもとに共有する

②その他の当事業対象者：私の目標（様式2）をもとに共有する

この際、事業所の担当者は、サービス実施にあたっての重要事項等を説明し、利用者と契約を結ぶ。

※「p4の6の（2）訪問型・通所型併用サービス」の場合は、初回訪問の利用時に事前アセスメントと利用者との契約を兼ねても差し支えない。

6. チャレンジ教室の流れ

（１）訪問型単独サービス

特に閉じこもりや心身の状況等のために通所型サービスへの参加が困難な者で、訪問型サービスの実施が必要と認められる者を対象に、リハビリ専門職が利用者の居宅を訪問して、生活機能に関する課題を総合的に把握・評価し、その上で必要な相談・指導のほか、プログラム及び自主トレーニング（以下、自主トレ）の提供などを行う。主な流れについては、以下のとおりである。

項目	主な内容	評価項目	様式
①事前アセスメント サービス担当者会議	「p3の5の(3) 契約と事前アセスメント」のとおり。	主観的健康観	重要事項説明書 契約書
②初回訪問 ①から約1週間後	生活上の指導や自主トレ等を書面にまとめ、説明とともに利用者へ配布。 ※右記評価項目は、必要項目のみ実施。	体力評価 栄養状態評価 口腔機能評価	個別サービス計画書 (様式3)
③経過確認	電話等にて、指導内容等の状況を確認し、 ④中間訪問時に内容更新等を検討。		
④中間訪問 ②から約1ヵ月半後	①～③に基づき、内容を更新し、提供。		
⑤経過確認	電話等にて、指導内容等の状況を確認し、 ⑥最終訪問時に内容更新等を検討。		
⑥最終訪問 サービス担当者会議 ②から約3ヵ月後	①～⑤に基づき、内容を更新し、提供。 ※右記評価項目は、必要項目のみ実施。	主観的健康観 体力評価 栄養状態評価 口腔機能評価	
⑦修了後アセスメント ⑥から約3ヵ月後・ 6ヵ月後・1年後	電話等にて修了時からの変化を把握。 詳細は「p9の12.の修了後アセスメント」のとおり。		

(2) 訪問型・通所型併用サービス

通所型サービスへの参加が可能な者を対象に、リハビリ専門職が利用者の居宅を訪問して、生活機能に関する課題を総合的に把握・評価し、その上で必要な相談・指導のほか、プログラム及び自主トレの提供などを通所型サービス利用時に行う。主な流れについては、以下のとおりである。

	主な内容	評価項目	様式
①事前アセスメント サービス担当者会議 初回訪問	「p35.の(3)の契約と事前アセスメント」のとおり。 ※延長利用の場合は省略も可能。	主観的健康観	重要事項説明書 契約書
②通所1～6回	1回目利用時に右記評価を実施し、①の状況も考慮したプログラム・自主トレ提供。	体力評価 栄養状態評価 口腔機能評価	個別サービス計画書 (様式3) ※以下の時期を目的に作成 初回：通所1回目利用後 中間：中間訪問利用後 最終：通所10回目利用後
③中間訪問 ①から約1ヵ月半後	立案目標状況の確認及び再設定。 ※状況に応じて省略も可能。		
④通所7～12回	10回目利用時を目的に右記評価を実施し、 ③の状況も考慮したプログラム・自主トレ提供。	主観的健康観、 体力評価 栄養状態評価 口腔機能評価	
⑤最終訪問 サービス担当者会議 ①から約3ヵ月後	最終確認。		
⑥修了後アセスメント ⑤から約3ヵ月後・ 6ヵ月後・1年後	電話等にて修了時からの変化を把握。 詳細は「p9の12.の修了後アセスメント」のとおり。		

7. 個別サービス計画

（１）個別サービス計画の作成

「p3 の 5.の（３）契約と事前アセスメント」、下記「8.評価項目」などの結果を踏まえ、プログラム内容や目標を設定し、個別サービス計画書（様式３）を作成後、利用者の承認を得る。承認を得た個別サービス計画書については、介護予防ケアマネジメントを行う包括または居宅、及び市に報告し、情報を共有する。

（２）目標の設定について

有効なサービス提供のためには、目標の設定が重要となることから、単なるサービス提供とならないよう、利用者からどのような生活機能を改善したいのかを具体的に聞き取り、個別サービス計画の目標とすることが必要である。また、手段が目標とならないよう、個人の心身・生活機能に合わせた、具体的かつ現実的な目標設定を行うことを心がけること。

【例：目標設定の違い】

× 手段が目標化したもの：筋力の向上、関節可動域の向上、バランスの向上 など

○ 個人に合わせた目標：足の筋力、体力を向上させ、300m 先のスーパーまで買い物に行ける など

ただし、改善がすべき生活課題を聞き出すことが難しい場合は、利用者の日常生活で必要とされる生活機能を列挙し、それがどの程度難しいのか、また改善可能であるのかを判断する。その上で、「1人で難しい項目⇒何とか1人でできる」ように、「何とか1人でできる項目⇒楽にできる」ように、といった一段改善された目標を設定する。

8. 評価項目

「p3.-p4 の 6.チャレンジ教室の流れ」に基づき、以下の評価を実施し、結果を各個別サービス計画書（様式３）に記載すること。なお、必要に応じ、その他の評価を実施しても差し支えないが、その際は、結果を各個別サービス計画書に記載すること。

項目	内容
主観的健康観	「最高によい・とても良い・良い・あまり良くない・良くない・全然良くない」の６段階評価。
体力評価	5m 歩行速度（快適・最大）、Timed Up and Go Test（TUG）（快適・最大）、5 回立ち上がりテスト、片脚立位テスト（上限 60 秒）、握力（左右）
栄養状態評価	Mini Nutritional Assessment（MNA）、体組成測定
口腔機能評価	Oral Frailty Index（OFI-8）

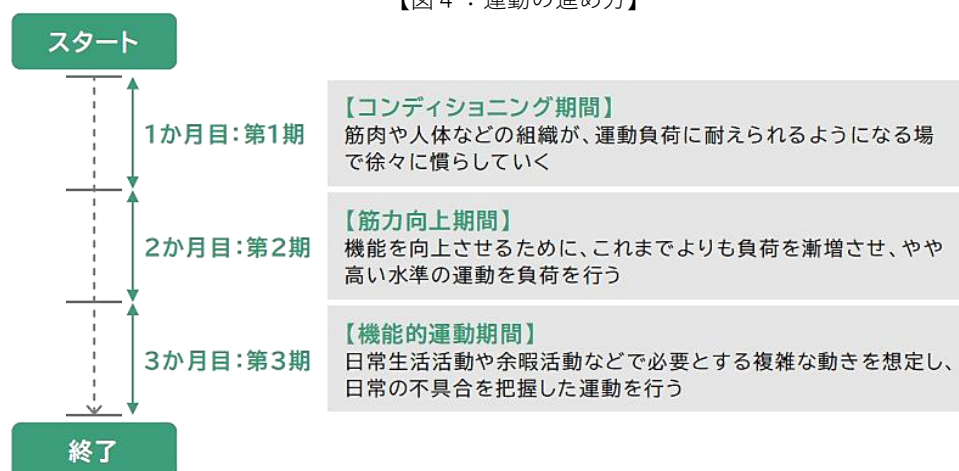
9. プログラム

チャレンジ教室は、3～6 ヶ月という比較的短期間の実施により、生活機能・運動機能の改善・向上を図るとともに、利用者自身が改善方法を習得し、またその方法を生活に定着させることに主眼を置くため、対象者にとって魅力的なプログラムとなるよう、情緒的なサポートも併せて行うことが望ましい。また、運動プログラムを実施する際は、栄養面にも配慮することが望ましい。

(1) プログラムの内訳

3 ヶ月間の内訳としては、おおむね、コンディショニング期間（第1期）・筋力向上期間（第2期）・機能的運動期間（第3期）に分けて実施する（図4）。

【図4：運動の進め方】



(2) 運動頻度

運動の実施回数は、利用者の負担とならず、かつ効果が期待できる頻度（回数）を設定する。後述するように、機能向上効果を得るためには、十分な運動量を確保することが重要となる。週1回の開催では十分な運動量を提供しているとは言い難く、自宅でも運動を行えるよう運動指導を行うとともに、それらを適切にモニタリングすることが求められる。

(3) 運動強度

身体機能の低い高齢者が安全に運動する事に配慮して、概ね1 ヶ月ごとに負荷レベルを漸増する。最初の1 ヶ月は、低負荷で高反復のコンディショニング期間とする。この期間に動作が円滑に行えるようになったら、次の1 ヶ月は、利用者の日常生活で必要とされる運動の水準よりやや高い運動負荷を行い、運動器の機能向上を目指す筋力向上期間とする。十分な機能の向上が見られたなら、最後の1 ヶ月は、運動器の機能向上が生活機能の改善として感じられるよう、より機能的な運動を取り入れる機能的運動期間とする。

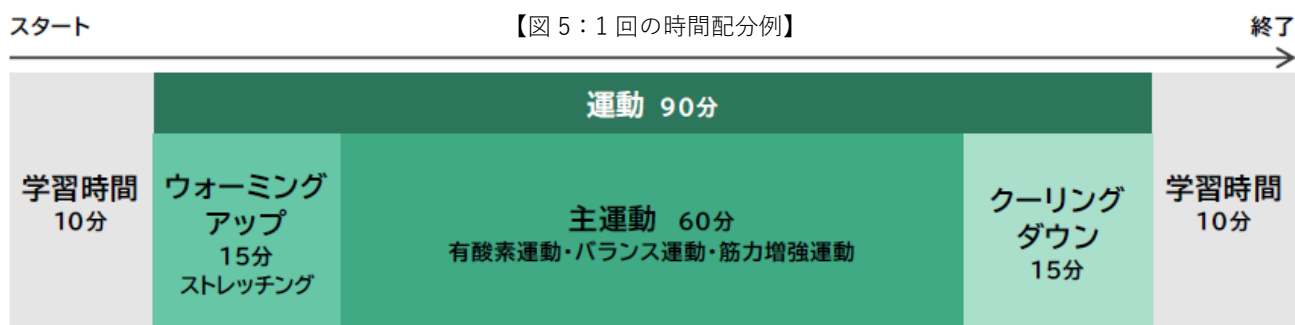
	運動強度の目安（最後の2～3回の筋肉の疲労感）	運動量（反復回数×セット数）
第1期	かなり楽～比較的楽	20～30回×1セット
第2期	ややきつい	10～15回×2セット
第3期	ややきつい	10～15回×3セット

（４）標準的なプログラム（主に通所型サービスの場合）

柔軟性・筋力・バランス能力などの体力の諸要素を包括的に向上させることができるように、ストレッチング・筋力増強運動・バランス運動等を組み合わせて１人１回あたり１時間３０分以上実施し、進行に従って徐々に負荷・強度・複雑さが増すように組み合わせると効果的である（図５）。

また、ウォーミングアップや主運動時に、集団での体操プログラムを実施する際には、利用修了後に介護予防に資する取り組みへ参加するきっかけづくりとして、地域で行っている「いきいき百歳体操」や「四日市リハビリ体操」を取り入れたり、時には、介護予防ボランティア「ヘルスリーダー」の協力による体操の実施も検討する。

更に、学習時間には、健康講話だけでなく、適宜専門職が関わり、利用者同士でセルフケア意識を高め合えるようなワークを取り入れることも検討する。



【１回のプログラム例】

	項目	実施内容	目的	時間
1	学習時間	健康講話、グループワーク等	運動習慣の定着	10 分
2	ウォーミングアップ	ストレッチング	運動準備 柔軟性向上	15 分
3	主運動 個別指導	筋力増強運動、バランス運動、 有酸素運動や個別的な関わりでの運動 及び動作方法等の指導	筋力増強 バランス向上 筋力増強 動作改善	60 分
4	クーリングダウン	ストレッチング、リラクゼーション	疲労の緩和	15 分
5	学習時間	自宅での実施内容・予定の設定	運動習慣の定着 生活動作への反映	10 分

（５）個別プログラムの設定

プログラムの実施にあたり、生活行為に支障がある要因・原因に焦点をあて①柔軟性・筋力・バランス能力などのうち、どの要素がより衰えているのか、②痛みを増悪しない動作は何か、③静的・動的・機能的バランスのどれがより衰えるのか等によって、個別のプログラムを作成することが望ましい。また、身体機能が高いにもかかわらず、脱落する利用者もいるため、個別プログラムの必要性を理解してもらえるよう十分な情報提供を行うとともに、包括及び居宅とも連絡をとりながら、精神面のサポートを行うことも必要である。

10. プログラム実施上の留意点

(1) プログラム実施前

① 運動を控えるべきチェック項目

- ☐ 体温 37.5℃以上
- ☐ 収縮期血圧 180mmHg 以上、または 80mmHg 未満
- ☐ 拡張期血圧 110mmHg 以上
- ☐ 脈拍 120 拍/分以上
- ☐ いつもと異なる脈の不整がある場合

※いつもと異なる脈の不整：毎回プログラム実施前に脈拍数だけでなく、不整脈についても観察する。

いつもより多く不整脈が発生する場合は運動を控える。

- ☐ 関節痛など慢性的な症状の悪化

② 利用者に周知すべき事前留意事項

- ☐ 運動直前の食事は避ける
- ☐ 水分補給を十分に行う
- ☐ 睡眠不足・体調不良の時には無理をしない
- ☐ 身体に何らかの変調がある場合（感冒、胸痛、頭痛、めまい、下痢等）には、従事者に伝える

(2) プログラム実施中

● 運動を中止するべきチェック項目

- ☐ 開始時より収縮期血圧が 40mmHg 以上または拡張期血圧が 20mmHg 以上上昇した場合
- ☐ 脈拍が 140 拍/分を超えた場合
- ☐ 頻呼吸（25 回/分以上）、息切れが出現した場合
- ☐ 運動により不整脈が増加した場合
- ☐ 徐脈が出現した場合
- ☐ 中等度以上の呼吸困難、嘔気、胸痛、頭痛、めまい、低血糖症状、強い疲労感などが出現した場合

(3) プログラム実施後

● 運動実施後に留意すべき状態

- ☐ 収縮期血圧 180mmHg 以上、または拡張期血圧 110mmHg 以上である場合
- ☐ 脈拍 120 拍/分以上の場合、いつもと異なる不整脈がある場合
- ☐ その他、(1)、(2)で述べた自覚症状を訴える場合

11. プログラム開始～事後アセスメント（サービス担当者会議）

プログラム開始時から、目標の達成状況や心身・生活機能の改善状況等を含めた評価・検討を適宜行い、包括の担当者と情報を共有する（基本チェックリストについては包括の担当者がプログラムの前後でチェックし比較する）。その上で、利用者の希望や地域の社会参加に資する活動の場の状況を十分把握し、今後、自立した生活をどのように続けていくのか、そのためにはどのような手段が必要なのかについて検討する。

上記を踏まえて、修了時に事後アセスメント（サービス担当者会議）を開催し、利用者の同意を得た上で、今後の方針を決定する。事後アセスメントの結果、期間を延長することで、（更なる）目標達成が見込まれると判断された場合などについては、例外的に一度の延長を認めるが、その判断については、利用者やチャレンジ教室実施事業所のみでは決定できないことに留意する。

12. 修了後アセスメント

利用修了後も自立した日常生活を営んでいるかを確認するため、利用修了日から概ね3ヵ月後、6ヵ月後、1年後の期間で利用修了者に連絡し、調査時の心身・生活機能等の状況によっては、包括及び居宅、並びに各関係機関と連携し、必要なサービスへ繋ぐ支援を行うこと。

13. 履行報告及び利用料の徴収・納入

（１）履行報告

①市への報告

- ・利用実績の有無に関わらず、毎月実施報告書（様式4）を翌月初旬に市に提出すること。
- ・個別サービス計画書（様式3）を①と併せて翌月初旬に市に提出すること。

②包括への報告

- ・毎月のサービスの提供にかかる予防給付・総合事業サービス利用票・提供票（兼予防給付・総合事業サービス計画）（様式5）を翌月初旬に担当の包括に提出すること。
- ・個別サービス計画書（様式3）を作成後、速やかに担当の包括に提出すること。

（２）利用料の徴収・納入

- ①利用料は訪問型サービス無料、通所型サービス1回320円とし、事業所が利用者から直接徴収すること。

ただし、生活保護受給者については、市が利用者（保護課）から徴収するものとする。

- ②徴収した利用料については、市が履行確認後に納入通知書を発行するため、事業所は納入通知書が届き次第、市が指定する口座へ納入するものとする。

14. 事故対応

事故防止のための配慮をするとともに、緊急時に対応できるような体制の整備を行うこと。万一、事業所内外で発生した骨折、創傷などのサービス利用者の負傷又は、死亡事故が発生した場合は、その後の事故に対する対応状況、経過等について事故発生報告書（様式6）を提出すること。

● 基本チェックリスト

回答が「1」に該当する数で事業対象者が否かの判断を行う。

なお、チャレンジ教室においては、

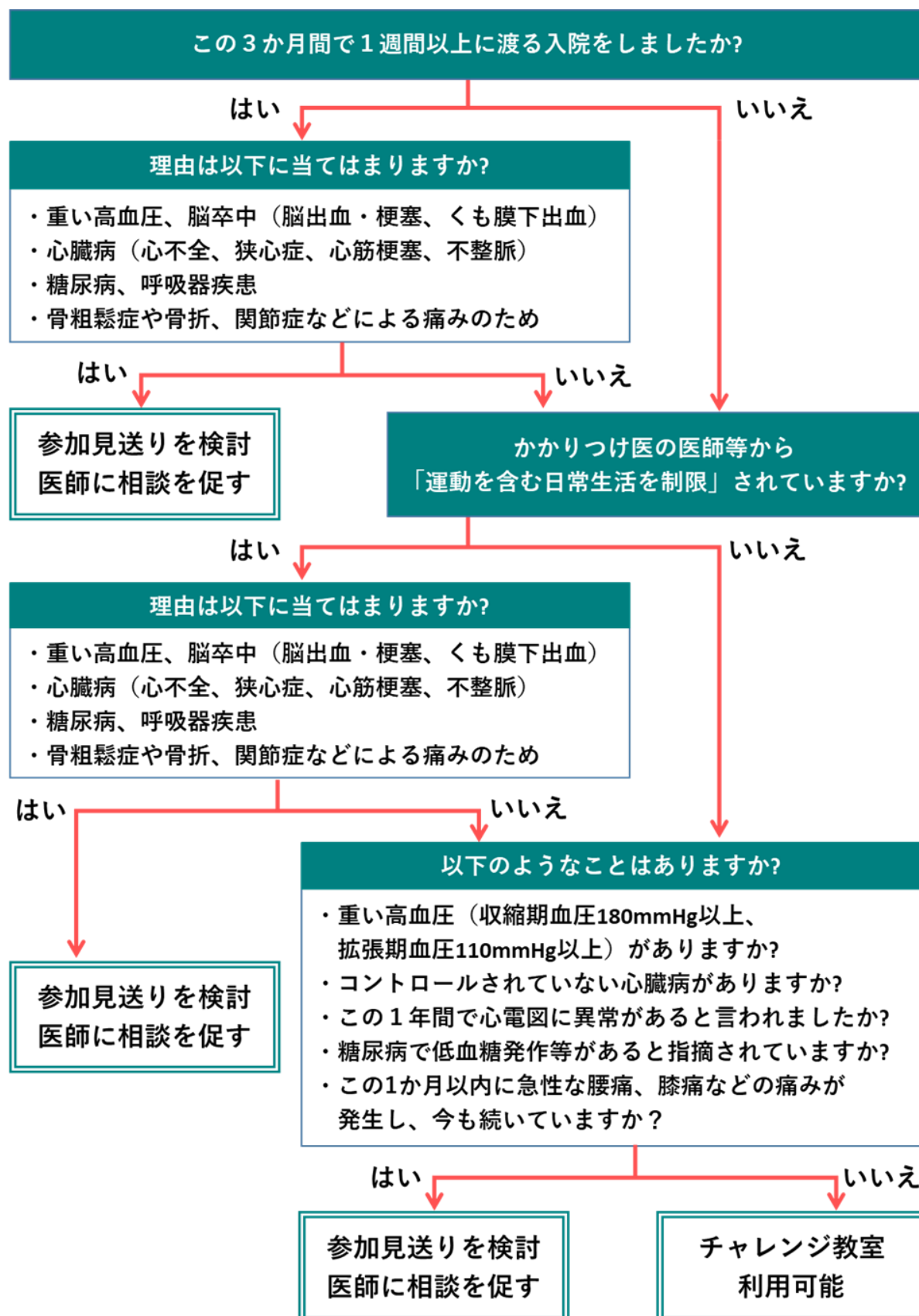
①複数の項目に支障 ②運動機能の低下 ⑤閉じこもり

のうち、1つ以上に該当する者を対象者とする。

	No.	質問事項	回答 (いずれかに○を付ける)		事業対象者に 該当する基準	
日常生活	1	バスや電車で1人で外出していますか	0.はい	1.いいえ		① 複数の項目に支障 10項目以上に該当
	2	日用品の買物をしていますか	0.はい	1.いいえ		
	3	預貯金の出し入れをしていますか	0.はい	1.いいえ		
	4	友人の家を訪ねていますか	0.はい	1.いいえ		
	5	家族や友人の相談にのっていますか	0.はい	1.いいえ		
運動器 機能	6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい	1.いいえ	②運動機能の低下 3項目以上に該当	
	7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0.はい	1.いいえ		
	8	15分位続けて歩いていますか	0.はい	1.いいえ		
	9	この1年間に転んだことがありますか	1.はい	0.いいえ		
	10	転倒に対する不安は大きいですか	1.はい	0.いいえ		
栄養状態	11	6ヶ月で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	0.いいえ	③低栄養状態 2項目に該当	
	12	身長 cm ・ 体重 kg (BMI=) (注)				
口腔機能	13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	0.いいえ	④口腔機能の低下 2項目以上に該当	
	14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	0.いいえ		
	15	口の渇きが気になりますか	1.はい	0.いいえ		
閉じこもり 傾向	16	週に1回以上は外出していますか	0.はい	1.いいえ	⑤閉じこもり N016に該当	
	17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい	0.いいえ		
認知機能	18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1.はい	0.いいえ	⑥認知機能の低下 1項目以上に該当	
	19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい	1.いいえ		
	20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい	0.いいえ		
うつ傾向	21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1.はい	0.いいえ	⑦うつ病の可能性 2項目以上に該当	
	22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい	0.いいえ		
	23	(ここ2週間)以前は楽に出来ていたことが今ではおっくうに感じられる	1.はい	0.いいえ		
	24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1.はい	0.いいえ		
	25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1.はい	0.いいえ		
(注) BMI＝体重 (Kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) が 18.5未満の場合に該当とする。						

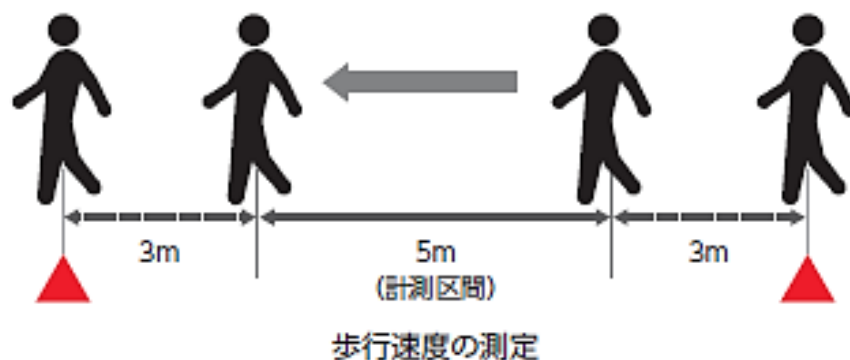
●メディカルチェックシート

運動よりも治療や安静が優先される場合は、事業参加を見送ること。チェック項目の中に「わからない」項目がある場合は、必要に応じて、かかりつけ医に相談すること。ただし、疾患や健康状態などについては、あくまでも自己申告であり、医師への事業参加可否の判断は強制的なものではない。



● 5 m歩行速度

- ・ 準備する物：ストップウォッチ、5m の計測区間に加え、予備路（加速路・減速路）を 3m ずつ確保する（合計 11m）
- ・ 測定方法：体幹が開始線を越えた瞬間から、体幹が終了線を越える瞬間までの時間を測定する。
- ・ 測定者の立ち位置：被験者がバランスを崩した時にすぐに支えることができるように、常に被験者の側にくことを怠ってはならない。また、片方の手を被験者の前に、もう片方の手を被験者の後ろに伸ばして、前後どちらにバランスを崩しても支えられるようにする。ただし、測定者の手を被験者に近づけすぎると、歩行を妨げる恐れがあるため注意する。被験者が下肢の骨折や脳卒中による片麻痺などを有しており、どちらか一侧の下肢機能が低下している場合は、原則として機能が低下している側に立つ。
- ・ 指示：「（開始・終了の目印となるコーンからコーンまでの距離を）いつも通りのスピードで歩いてください」
- ・ 基準値：サルコペニア、フレイル：<1.0m/sec (>5 秒)^{1,2)}

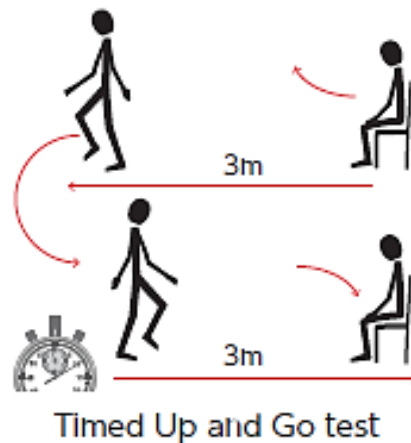


1) Satake S, Shimada H, Yamada M, Kim H, Yoshida H, Gondo Y, Matsubayashi K, Matsushita E, Kuzuya M, Kozaki K, Sugimoto K, Senda K, Sakuma M, Endo N, Arai H. Prevalence of frailty among community-dwellers and outpatients in Japan as defined by the Japanese version of the Cardiovascular Health Study criteria. *Geriatr Gerontol Int*. 2017 Dec;17 (12) :2629-34. doi: 10.1111/ggi.13129.

2) Bischoff HA, Stähelin HB, Monsch AU, Iversen MD, Weyh A, von Dechend M, Akos R, Conzelmann M, Dick W, Theiler R. Identifying a cut-off point for normal mobility: a comparison of the timed 'up and go' test in community-dwelling and institutionalised elderly women. *Age Ageing*. 2003 May;32 (3) :315-20.

● Timed Up & Go Test (TUG)

- ・ 準備する物：ストップウォッチ、椅子（標準的なパイプ椅子のような物を用意する。椅子の背もたれを壁につけたり、テープなどを用いて地面に固定することが望ましい）と 3m の歩行路
- ・ 測定方法：体が動き出した瞬間から座面に臀部が着くまでを計測する。距離は椅子の前脚から 3m 測定し設定する。
- ・ 測定者の立ち位置：歩行速度の計測に準ずる。
- ・ 指示：「手を太ももの上に置いた状態から、スタートの合図で立ち上がり、目印で方向転換して、椅子に座ってください。方向転換の方向はどちらでもかまいません。座るまでの時間を計測しますので、必ず椅子に座ってください。なお、普段通りのスピードで歩いてください」
- ・ 基準値：運動器不安定症： ≥ 11.0 秒¹⁾、ADL 低下のリスク： ≥ 12.0 秒、転倒発生リスク： ≥ 13.5 秒²⁾



1) Bischoff HA, Stähelin HB, Monsch AU, Iversen MD, Weyh A, von Dechend M, Akos R, Conzelmann M, Dick W, Theiler R. Identifying a cut-off point for normal mobility: a comparison of the timed 'up and go' test in community-dwelling and institutionalised elderly women. Age Ageing. 2003 May;32 (3) :315-20.

2) Shumway-Cook A, Brauer S, Woollacott M. Predicting the probability for falls in communitydwelling older adults using the Timed Up & Go Test. Phys Ther. 2000 Sep;80 (9) :896-903.

● 片脚立位テスト

- ・ 準備する物：ストップウォッチ
- ・ 測定方法：支持脚は任意（対象者の得意な側）とする。検査前に 1 ～ 2 回練習させる。両手は自由な位置で、片脚を床から離した状態で行う。立位姿勢の規定はなく、自然な立位とする。片脚が浮いた時点から次のいずれかまで計測する：挙げた足が床に着く、支持脚に触れる、軸足の位置がずれる、手が壁などに触れる。最大で 60 秒まで計測する。
- ・ 測定者の立ち位置：測定者は被験者の前方に位置する。被験者が左右のどちらにバランスを崩しても支えることができるように、被験者の左右両方に手を伸ばす。あるいは、被験者を壁の近くに立たせて、測定者は壁と反対側に立つ。このようにすれば、壁の方向にバランスを崩しても転倒を防ぐことができる。
- ・ 指示：「立ちやすい方の脚で片脚立ちを行います。浮いた足が床に着いたり、立っている脚に触れたり、立っている足の位置がずれたり、何か手で触れたりすると終了です」
- ・ 基準値：運動器不安定症：<15.0 秒¹⁾



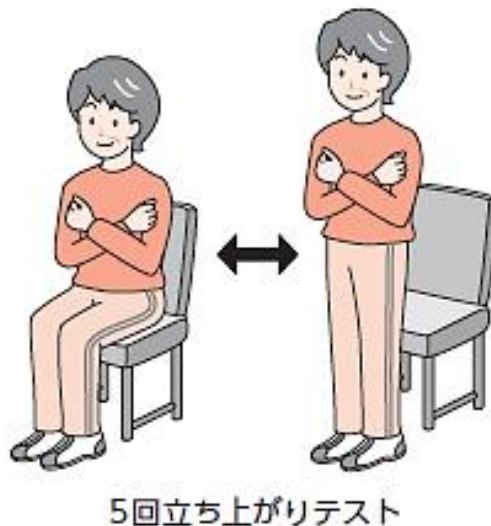
片脚立位テスト

被験者を壁の近くに立たせることで転倒を予防する。

1) 公益財団法人 日本整形外科学会. 「運動器不安定症」(<https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/mads.html>)

● 5回立ち上がりテスト

- ・ 準備する物：ストップウォッチ、椅子（標準的なパイプ椅子のような物を用意する。椅子の背もたれを壁につけたり、テープなどを用いて地面に固定することが望ましい）
- ・ 測定方法：座位姿勢より、5回の立ち上がり動作完了（最終姿勢は立位）までの時間を計測する。着座時に臀部を打たないように気をつける。
- ・ 測定者の位置：測定者は椅子のすぐ近くに立ち、被験者が前後どちらにバランスを崩しても支えられるよう手を伸ばす。
- ・ 指示：「腕を胸の前で組んで、できる限り速く、椅子から5回連続で立ち上がってください。立ち上がる時は、膝を完全に伸ばしてください。座るときはお尻を座面につけることに注意してください」
- ・ 基準値：サルコペニア、転倒発生リスク： ≥ 12.0 秒¹⁾



1) Tiedemann A, Shimada H, Sherrington C, Murray S, Lord S. The comparative ability of eight functional mobility tests for predicting falls in community-dwelling older people. Age Ageing. 2008 Jul; 37 (4) :430-5. doi:10.1093/ageing/afn100.

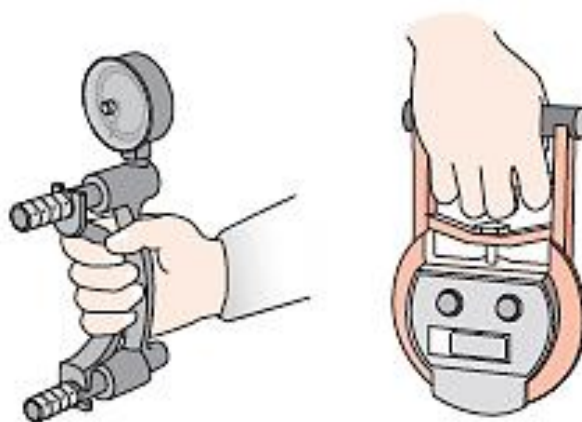
● 握力

■ ジャマー型（推奨）

- ・ 準備する物：ジャマー型握力計
- ・ 測定方法：座位にて計測する。肩関節屈伸 0 度、肘関節 90 度屈曲位で、前腕と床面が平行になるように握力計を握る。左右ともに 2 回ずつ計測し最大値を採用する。
- ・ 指示「腕を自然に下げ、肘を直角に曲げた状態で握力計を力いっぱい握りしめてください。この際、握力計を振り回さないようにしてください」
- ・ 基準値：サルコペニア、フレイル：男性<28kg、女性<18kg

■ スメドレー型

- ・ 準備する物：スメドレー握力計
- ・ 測定方法：握力計の表示が外側になるように握る。人差し指の PIP 関節（第 2 関節）が、ほぼ直角になるように握りの幅を調節する。左右ともに 2 回ずつ計測し最大値を採用する。
- ・ 指示：「直立の姿勢で両足を左右に自然に開き、腕を自然に下げ、握力計を身体や衣服に触れないようにして力いっぱい握りしめてください。この際、握力計を振り回さないようにしてください」
- ・ 基準値：サルコペニア、フレイル：男性<28kg、女性<18kg^{1,2)}



握力の測定(左：ジャマー型、右：スメドレー型)

1) 一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会,「サルコペニア診断基準の改訂（AWGS2019 発表）(<http://jssf.umin.jp/>)

2) SatakeS,ShimadaH,YamadaM,KimH,YoshidaH,GondoY,MatsubayashiK,MatsushitaE,KuzuyaM,KozakiK,SugimotoK, SendaK,SakumaM,EndoN,Arai H.Prevalenceoffrailtyamongcommunity-dwellersandoutpatientsinJapanasdefinedbytheJapaneseversionoftheCardiovascularHealthStudycriteria.GeriatrGerontolInt.2017Dec;17 (12) :2629-34.doi:10.1111/ggi.13129.

● 評価項目詳細

● 年齢別体力基準値表

		65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-歳
快適歩行速度 (m/秒)	平均値±標準偏差	1.38±0.23	1.33±0.23	1.24±0.23	1.13±0.25
	☆☆☆☆☆	≦1.20	≦1.20	≦1.00	≦0.90
	★★☆☆☆	1.21~1.30	1.21~1.30	1.01~1.20	0.91~1.00
	★★★☆☆	1.31~1.40	1.31~1.40	1.21~1.30	1.01~1.20
	★★★★☆	1.41~1.60	1.41~1.50	1.31~1.40	1.21~1.30
	★★★★★	>1.60	>1.50	>1.40	>1.30
最大歩行速度 (m/秒)	平均値±標準偏差	1.85±0.27	1.75±0.30	1.65±0.28	1.52±0.31
	☆☆☆☆☆	≦1.60	≦1.50	≦1.40	≦1.30
	★★☆☆☆	1.61~1.80	1.51~1.70	1.41~1.60	1.31~1.40
	★★★☆☆	1.81~1.90	1.71~1.80	1.61~1.70	1.41~1.60
	★★★★☆	1.91~2.00	1.81~2.00	1.71~1.90	1.61~1.80
	★★★★★	>2.00	>2.00	>1.90	>1.80
Timed up & go (秒)	平均値±標準偏差	6.34±1.15	6.94±1.28	7.44±1.51	8.69±2.21
	☆☆☆☆☆	>7.20	>7.80	>8.60	>10.30
	★★☆☆☆	6.61~7.20	7.11~7.80	7.61~8.60	8.71~10.30
	★★★☆☆	6.01~6.60	6.41~7.10	6.91~7.60	7.91~8.70
	★★★★☆	5.41~6.00	5.81~6.40	6.21~6.90	6.91~7.90
	★★★★★	≦5.40	≦5.80	≦6.20	≦6.90
5回立ち上がりテスト (秒)	平均値±標準偏差	7.77±1.90	8.28±2.03	8.52±2.12	9.67±2.51
	☆☆☆☆☆	>9.20	>9.90	>10.10	>11.50
	★★☆☆☆	7.91~9.20	8.61~9.90	8.81~10.10	10.11~11.50
	★★★☆☆	7.21~7.90	7.51~8.60	7.71~8.80	8.61~10.10
	★★★★☆	6.21~7.20	6.51~7.50	6.71~7.70	7.51~8.60
	★★★★★	≦6.20	≦6.50	≦6.70	≦7.50
片脚立位時間 (秒)	平均値±標準偏差	40.8±20.7	32.5±21.6	25.5±19.9	16.2±17.9
	☆☆☆☆☆	≦17.0	≦10.0	≦6.0	≦3.0
	★★☆☆☆	17.1~37.0	10.1~20.0	6.1~14.0	3.1~6.0
	★★★☆☆	37.1~60.0	20.1~39.0	14.1~27.0	6.1~12.0
	★★★★☆	>60.0	39.1~60.0	27.1~48.0	12.1~25.0
	★★★★★	>60.0	>60	>48.0	>25.0
握力（男性） (kg)	平均値±標準偏差	38.7±5.9	35.3±6.0	34.3±6.1	29.7±5.3
	☆☆☆☆☆	≦34.0	≦30.0	≦29.0	≦25.0
	★★☆☆☆	34.1~37.0	30.1~35.0	29.1~33.0	25.1~29.0
	★★★☆☆	37.1~40.0	35.1~38.0	33.1~35.0	29.1~31.0
	★★★★☆	40.1~44.0	38.1~40.0	35.1~40.0	31.1~34.0
	★★★★★	>44.0	>40.0	>40.0	>34.0
握力（女性） (kg)	平均値±標準偏差	23.8±4.0	22.6±3.9	21.5±3.7	19.6±3.5
	☆☆☆☆☆	≦21.0	≦20.0	≦19.0	≦16.0
	★★☆☆☆	21.1~23.0	20.1~22.0	19.1~20.0	16.1~19.0
	★★★☆☆	23.1~25.0	22.1~23.0	20.1~22.0	19.1~21.0
	★★★★☆	25.1~27.0	23.1~25.0	22.1~25.0	21.1~22.0
	★★★★★	>27.0	>25.0	>25.0	>22.0
年齢別の基準値を示す。介入前後で対象者へフィードバックする際の参考値。					
地域在住高齢者に対して実施した体力測定データを基に算出。					

●簡易栄養評価表：Mini Nutritional Assessment (MNA[®])

・MNA[®]は、栄養状態について問診表を主体としてスクリーニングする指標である。MNA[®]は 18 項目あり、6 個のスクリーニング項目と 12 個の評価項目から構成されている。栄養状態は、各項目におけるポイントの合計で評価され、24 点以上は「栄養障害なし」、17 ～ 23.5 点は「栄養障害のリスクあり」、17 点未満を「栄養障害あり」と判定される¹⁾。

・この値は、我が国の高齢者における低アルブミン血症（3.5g/dL 未満）の推測にも有用とされ、MNA[®]が 17 点未満で感度が 81.0%、特異度が 86.0%、MNA_R-SF が 11 点以下で感度が 86.1%、特異度が 84.0%であったと報告されている²⁾。また、MNA[®]が低値である場合、死亡や ADL 低下のリスクが高まることが報告されている^{3,4)}。

http://www.mna-elderly.com/forms/MNA_japanese.pdf

簡易栄養状態評価表 Mini Nutritional Assessment MNA [®]		Nestlé Nutrition Institute	
氏名: _____ 性別: _____			
年齢: _____	体重: _____ kg 身長: _____ cm 調査日: _____		
スクリーニング欄の口に通切な数値を記入し、それらを加算する。11 ポイント以下の場合、次のアセスメントに進み、総合評価値を算出する。			
スクリーニング A 過去 3 ヶ月間で食慾不振、消化器系の問題、 吐きけ、嘔吐、下痢などで食事量が減少しましたか？ 0 = 著しい食事量の減少 1 = 中等度の食事量の減少 2 = 食事量の減少なし		J 1 日に何回食事を摂っていますか？ 0 = 1 回 1 = 2 回 2 = 3 回	
B 過去 3 ヶ月間で体重の減少がありましたか？ 0 = 3 kg 以上の減少 1 = 1~3 kg の減少 2 = 1 kg 未満の減少 3 = 体重減少なし		K どんなたんばく質を、どのくらい摂っていますか？ ・乳製品（牛乳、チーズ、ヨーグルト）を毎日 1 品以上摂取 ・豆類または卵を毎日 2 品以上摂取 ・肉類または魚を毎日摂取 はい ☐ いいえ ☐ はい ☐ いいえ ☐ はい ☐ いいえ ☐	
C 自力で歩けますか？ 0 = 寝たきりまたは車椅子を常時使用 1 = ベッドや車椅子を離れ歩けるが、歩いて外出はできない 2 = 自由に歩いて外出できる		L 果物または野菜を毎日 2 品以上摂っていますか？ 0 = いいえ 1 = はい	
D 過去 3 ヶ月間で精神的ストレスや急性疾患を 経験しましたか？ 0 = はい 2 = いいえ 1 = 神経、精神的問題の発症		M 水分（水、ジュース、コーヒー、茶、牛乳など）を 1 日どのくらい 摂っていますか？ 0.0 = コップ 3 杯未満 0.5 = 3 杯以上、5 杯未満 1.0 = 5 杯以上	
E 神経、精神的問題の発症 0 = 強度認知症またはうつ状態 1 = 中等度の認知症 2 = 軽度の認知症		N 食事の状況 0 = 少量または食事不可能 1 = 多少困難ではあるが自力で食事可能 2 = 困難なく自力で食事可能	
F BMI 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ² 0 = BMI が 19 未満 1 = BMI が 19 以上、21 未満 2 = BMI が 21 以上、23 未満 3 = BMI が 23 以上		O 栄養状態の自己評価 0 = 自分は低栄養だと思う 1 = わからない 2 = 問題ないと思う	
スクリーニング値：小計（最大：14 ポイント） 12-14 ポイント：栄養状態良好 8-11 ポイント：低栄養のリスクあり (At risk) 0-7 ポイント：低栄養 「より詳細なアセスメントをご希望の方は、引き続き質問 G～R におすす みください。」		P 同年齢の人と比べて、自分の健康状態をどう思いますか？ 0.0 = 良くない 0.5 = わからない 1.0 = 同じ 2.0 = 良い	
アセスメント G 生活は自立していますか（施設入所や入院をしていない） 1 = はい 0 = いいえ		Q 上腕（肘と肩ではない方）の中央の周囲長 (cm) : MAC 0.0 = 21cm 未満 0.5 = 21cm 以上、22cm 未満 1.0 = 22cm 以上	
H 1 日に 4 種類以上の処方薬を飲んでいる 0 = はい 1 = いいえ		R ふくらはぎの周囲長 (cm) : CC 0 = 31cm 未満 1 = 31cm 以上	
I 身体どこかに押して痛むところ、または皮膚潰瘍がある 0 = はい 1 = いいえ		評価値：小計（最大：16 ポイント） スクリーニング値：小計（最大：14 ポイント） 総合評価値（最大：30 ポイント）	
低栄養状態指標スコア 24～30 ポイント：栄養状態良好 17～23.5 ポイント：低栄養のリスクあり (At risk) 17 ポイント未満：低栄養			

1) VellasB,Guigoz Y,GarryPJ,etal.TheMiniNutritionalAssessment (MNA) anditsuseingradingthenutritionalstateofelderlypatients.Nutrition.1999;15 (2) :116-22.

2) KuzuyaM,KandaS,KoikeT,etal.EvaluationofMini-NutritionalAssessmentforJapanesefrailelderlyNutrition.2005;21 (4) :498-503.

3) KiesswetterE,Pohlhausen S,UhligKetal.Prognosticdifferencesofthe MiniNutritionalAssessmentsforformandlongform inrelationto1-yearfunctionaldeclineand mortality incommunity-dwellingolderadultsreceivinghomecare.JAMGeriatrSoc. 2014;62 (3) :512-7.

4) LeeLC,TsaiAC.Mini-Nutritional-Assessment (MNA) withoutbodymassindex (BMI) predictsfunctionaldisabilityinellderlyTaiwanese.ArchGerontolGeriatr.2012;54 (3) :e405-10.

● 評価項目詳細

● オーラルフレイルチェックリスト：Oral Frailty Index（OFI-8）

・ OFI-8 は、自分の口の健康状態を把握し、オーラルフレイル（口のささいな衰え）への関心を持ってもらうことを目的とした質問項目である。全 8 項目について、それぞれ「はい」、「いいえ」を選択し、合計点数を算出し、4 点以上は「オーラルフレイルの危険性が高い」、3 点は「オーラルフレイルの危険性あり」、0～2 点を「オーラルフレイルの危険性は低い」と判定される¹⁾。

オーラルフレイル チェックリスト

質問	はい	いいえ	質問	はい	いいえ
01. 半年前に比べて、硬いものが食べにくくなった	1	☐	05. 半年前に比べて、外出の頻度が少なくなった	1	☐
02. お茶や汁物でむせることがある	1	☐	06. さきいか、たくあんくらいの硬さの食べ物が噛める	1	1
03. 義歯を使用している *	1	☐	07. 1 日に 2 回以上は歯を磨く	1	1
04. 口の乾きが気になる	1	☐	08. 1 年に 1 回以上は歯科医院を受信している	1	1

➡

合計の点数が

0.2 点：オーラルフレイルの危険性は低い
3 点：オーラルフレイルの危険性あり
4 点以上：オーラルフレイルの危険性が高い

* 義歯の適切な使用はとても重要です。義歯を正しく使っているか、口腔機能を維持できているかを調べるのが大切です。

1) Tanaka T, Hirano H, Ohara Y, Nishimoto M, Iijima K. Oral Frailty Index-8 in the risk assessment of new-onset oral frailty and functional disability among community-dwelling older adults. Arch Geront Geriatr 2021 (in press)

● 参考資料 URL 集

（１）市の基本情報

- （地区・町別）高齢化率 <https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/genre/1496040010830/index.html>
- （地区別）要介護認定率・（地区別）通いの場の状況・（地区別）健康課題 等
高齢福祉課担当者へ直接問い合わせ

（２）介護予防事業参考資料

〈 厚生労働省 〉

- 介護予防
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html
- 地域づくり支援ハンドブック Vol.2
https://www.jmar.co.jp/2024/05/15/ligr5_10_handbook_supporter.pdf
- 介護予防マニュアル第４版
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001238550.pdf>
- 食べて元気にフレイル予防
<https://www.mhlw.go.jp/content/000620854.pdf>

〈 国立長寿医療研究センター 〉

- 介護予防ガイド
<https://www.ncgg.go.jp/ri/pamph/documents/cgss1.pdf>
- 介護予防ガイド 実践・エビデンス編
<https://www.ncgg.go.jp/ri/pamph/documents/cgss2.pdf>
- 地域における！フレイル予防活動実践！マニュアル
<https://www.ncgg.go.jp/ri/pamph/documents/cgss3.pdf>
- 健康長寿教室テキスト（第２版）
https://www.ncgg.go.jp/ri/news/documents/chojutext_2020.pdf
- 在宅活動ガイド 2020
<https://www.ncgg.go.jp/hospital/guide/hepop/>
- あたまとからだを元気にする MCI ハンドブック（第２版）
<https://www.ncgg.go.jp/ncgg-overview/pamphlet/documents/mcihandbook-v2.pdf>

〈 筑波大学 YAMADA Lab.介護予防研究室 〉

- フレイル対策のための運動マニュアル
<https://www.yamada-lab.tokyo/resource/122/>
- 〈 日本歯科医師会 〉
- 通いの場で活かすオーラルフレイル対応マニュアル
https://www.jda.or.jp/oral_frail/2020/pdf/2020-manual-all.pdf

〈 日本理学療法士会 〉

- 理学療法ハンドブック
https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/handbook/

〈 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 〉

- おいしく食べて低栄養予防！
https://www.tmig.or.jp/research/albums/abm.php?d=471&f=abm00000959.pdf&n=%E3%81%8A%E3%81%84%E3%81%97%E3%81%8F%E9%A3%9F%E3%81%B9%E3%81%A6_%E4%BD%8E%E6%A0%84%E9%A4%8A%E4%BA%88%E9%98%B2.pdf

（３）通いの場検索方法

- 四日市市の介護予防事業・教室
<https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/genre/1565075712838/index.html>
- 四日市市の生涯学習情報「まなぼうや」 <https://manabouya.com/>
- 四日市市なやプラザ（市民活動・生涯学習登録団体の紹介）
<https://sites.google.com/view/naya-plaza/%E7%99%BB%E9%8C%B2%E5%9B%A3%E4%BD%93%E3%81%AE%E7%B4%B9%E4%BB%8B>